



KASUYA TOWN 5th MASTER PLAN

基本計画

まちづくりの進め方

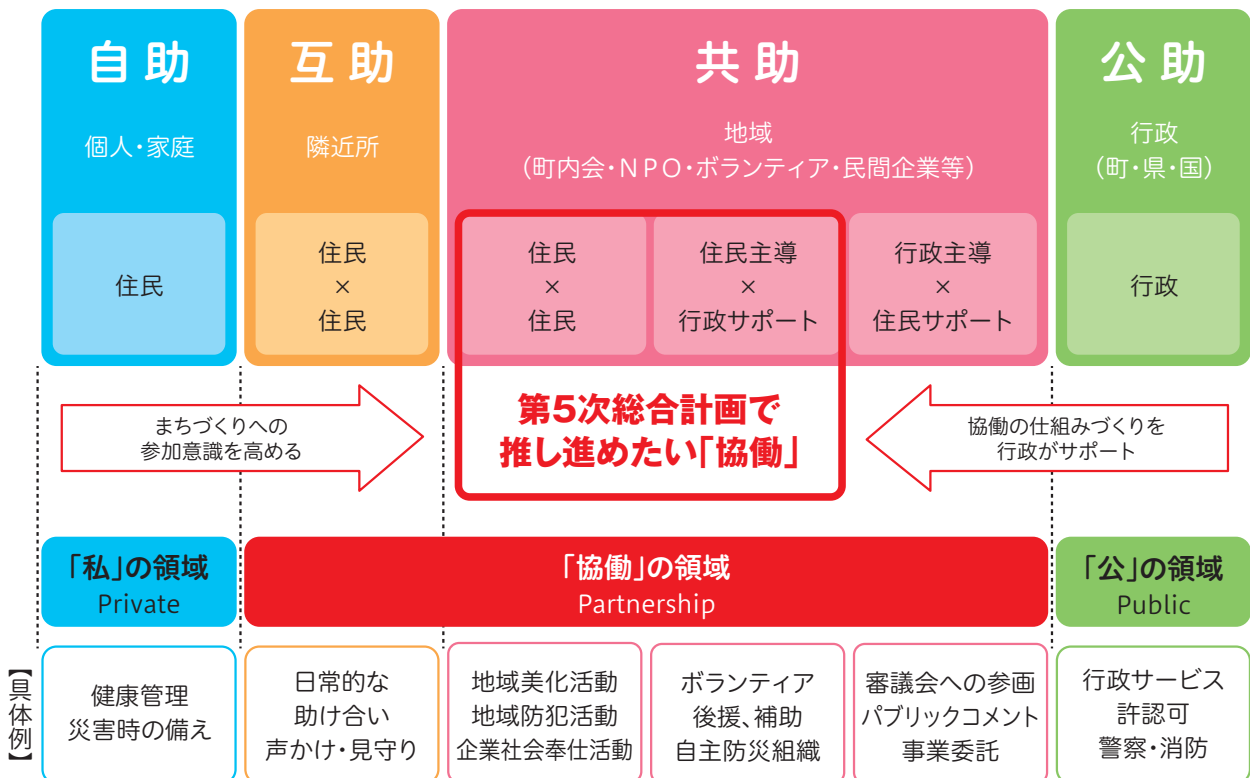
1.協働のまちづくり

第5次総合計画基本構想では、前計画のまちづくりの基本理念を継承しつつ、これからの新しい時代に向けて、町民誰もが安心して暮らせるまちを実現するために、新たに「協働でつくる安心のまち」をまちづくりの基本理念として掲げています。

これまで施策の実施にあたって、行政が主体となり町民が参画するなど、「行政主導・住民サポート型」の協働が中心となっていました。今後、協働の必要性がますます高まっている中、「住民主導・行政サポート型」「住民自立型」の協働を推し進めていくことが重要です。

基本計画の前期（平成28年度～平成32年度）においては、協働の基本的な考え方や必要性などを町職員だけでなく、まちづくりに関わるすべての人が共通の認識を持つとともに、協働の仕組みを構築し、さらなる協働のまちづくりを進めます。

協働のイメージ



- 自助：個人・家庭の力でできることは、個人・家庭で行う。
- 互助：隣近所で支え合ってできることは、隣近所で助け合う。
- 共助：地域（町内会・NPO・ボランティア・民間企業等）で力を合わせてできることは、地域で助け合う。
- 公助：個人・家庭・隣近所・地域で実現が困難なこと、行政が実施することが効率的なことは、積極的に支援する。



2.まちづくりのスマイル指標

基本計画の前期(平成28年度～平成32年度)においては、総合指標として「まちづくりのスマイル指標」を定めるとともに、基本施策ごとに指標を定め、まちの将来像「心かよいあうスマイルシティかすや」の実現に向けたまちづくりに取り組んでいきます。

実感指標

指標	内容	現状値 (H27)	目標値 (H32)
幸せ指標	①粕屋町に暮らしていて幸せだと思う町民の割合 (10段階評価の7～10点の合計)	47.9%	より 幸せに!
	②粕屋町に愛着を感じている町民の割合 (「強く感じている」「感じている」の合計)	60.0%	
住みよさ指標	③今後も粕屋町に住みたいと思う町民の割合 (「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合計)	82.2%	より 住みやすく!
	④粕屋町は住みやすいと思う町民の割合 (「とても住みやすい」「住みやすい」の合計)	79.1%	
つながり指標	⑤隣近所と付き合いのある町民の割合 (「親密な付き合いがある」「どちらかといえば付き合いがある」の合計)	65.6%	つながり を深め!
活力指標	⑥粕屋町は活力ある元気なまちだと思う町民の割合 (「そう思う」「ややそう思う」の合計)	67.1%	より活力 あるまちに!
健やか指標	⑦粕屋町は健康に暮らせるまちだと思う町民の割合 (「そう思う」「ややそう思う」の合計)	76.4%	より 健康に!

※平成27年度に実施した町民意識調査(18歳以上の町民3,000人を無作為抽出 有効回答数917)の結果をもとに、現状値を設定したものです。

客観指標

指標	内容	現状値 (H25-H26)	目標値 (H30-H31)
出生率 ^{※1}	人口に対する出生数の割合	16.20%	16.20%
社会増加率	転入、転出を要因とする人口増加の割合	0.25%	0.31%

※1 出生率：人口1,000人あたりの出生数の割合(%)

※人口移動調査(福岡県の人口と世帯年報)の数値(9月末現在)

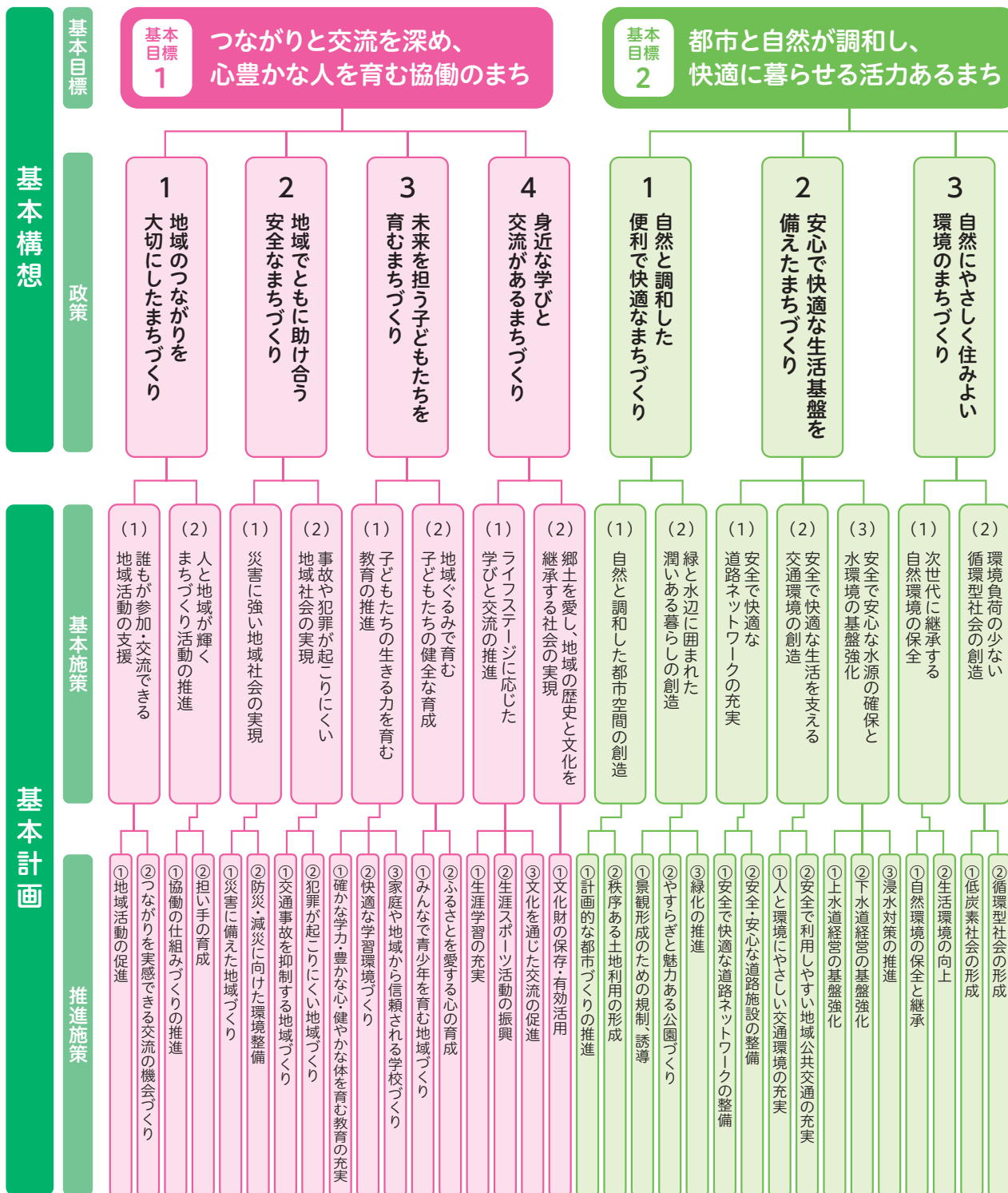
基本計画

1. 施策体系図

[前期 平成28年度～平成32年度]

将来像

心かよいあう

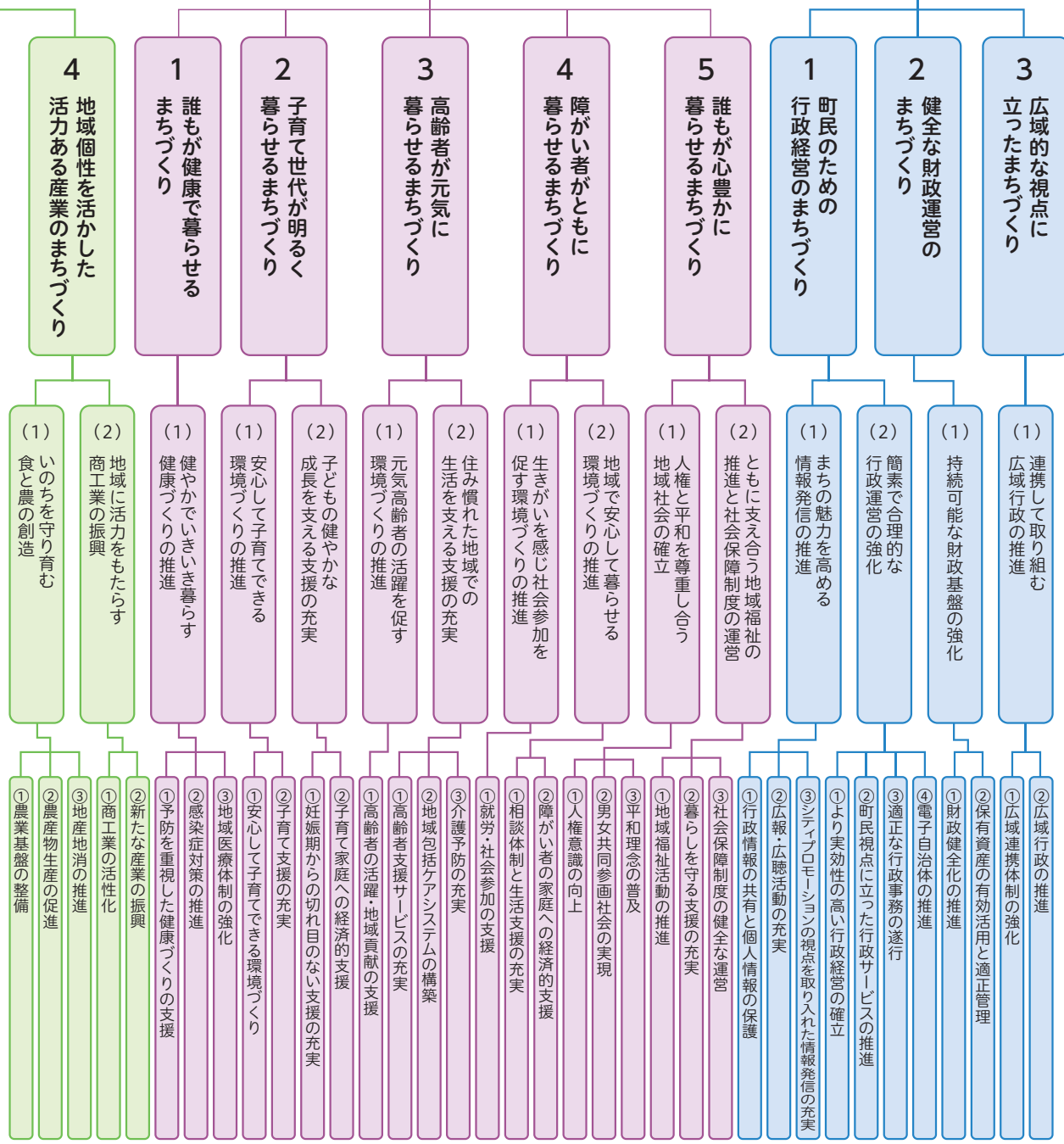




スマイルシティかすや

基本目標 3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

基本目標 4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち



2.基本計画の各論

基本計画の見方

基本施策

基本目標の実現に向けて、分野ごとに基本計画の前期5年間における施策の方向性を記載しています。

基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

① 地域のつながりを大切にしまちづくり

(1) 誰もが参加・交流できる地域活動の支援

基本施策

誰もがまちづくりに関心を持ち、地域の課題解決に向けて主体的に取り組むことができるよう、町民のコミュニティ意識の向上を図るとともに、地域活動の支援を進めます。

また、地域の身近な活動拠点の利用を促進し、多様な交流機会や語り合いの場を創出します。

現状と課題

- 本計画の策定過程におけるまちづくりワークショップの中で、世代をこえて人と人とのつながりを実感できるまちづくりの大切さについて、多くの町民が共通認識を持っていることがわかりました。
- 行政区等における地域活動は、町民に身近な存在として、交流や助け合い等、地域の生活を支える基盤となるものです。しかし、近年のライフスタイルや価値観の多様化により、地域活動に参加する町民は全国的に少なくなっている傾向がみられます。
- 町民意識調査の結果では、年齢別では若い世代、住居別では集合住宅（賃貸）、職業別では会社員や学生において、地域とのつながりが薄い傾向がみられ、地域活動への参加率も低い状況がうかがえます。さらに行政区では、多くの区長が5年前と比べて活動が活発になっていると感じている一方で、地域活動への町民の関心の薄さや、担い手の高齢化、担い手不足が課題としてあげられています。今後、町民のコミュニティ意識を高めるとともに、幅広い世代が参加できる仕組みづくりが求められています。
- 本町では、子ども会や老人クラブ、婦人会等が地域で活動しており、これまでも団体間交流などが行われてきました。しかし近年、地域活動団体の中では、加入率の低下に伴い、役員負担増大、参加者や活動内容の固定化などが課題となっています。今後、より柔軟な発想を持って魅力的な地域活動が展開されるよう、世代や地域、団体の枠をこえて活動内容について共有できる場が求められています。

現状と課題

社会状況や国の動向を踏まえ、町の取組状況について、現状と課題を記載しています。

KASUYA TOWN 5th MASTER PLAN



指標

基本施策の成果を測るための代表的な指標を記載しています。

実感指標

町民意識調査に基づき、町民の実感から成果を測る指標です。

客観指標

統計データ等から客観的に成果を測る指標です。

指標

区分	指標名	単位	現状値(H27)	目標値(H32)
実感指標	地域行事に参加している町民の割合	%	35.2	
客観指標	公民館主催の生涯学習活動への参加人数	人/年	30,370	34,000

推進施策の展開

施策名	施策の概要
①地域活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の意義を広く周知し、町民のコミュニティ意識の向上を図ります。 身近な地域活動への支援を行うとともに、町民と行政が協働で、さまざまな地域課題の解決に向けた取組を推進します。 公民館等の地域活動拠点の運営を支援するとともに、活動拠点の活用を促進します。
②つながりを 実感できる 交流の機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな町民が集い、世代をこえてまちづくりについて考える機会づくりを促進します。 誰もが気軽に参加できる機会づくりなど、町民による主体的な世代間交流や地域間交流を促進します。



推進施策の展開

基本施策に基づく具体的な施策名と施策の概要を記載しています。

関連する個別計画がある場合は計画名を記載しています。

主要な協働の展開

誰もが身近な地域でつながりを持てるよう、町民は地域活動に参加し、世代間交流や地域間交流を進めます。

- 地域活動への関心を持ち、積極的に参加する
- 世代間交流や地域間交流の場をつくる

町民

行政

- 町民の地域活動を支援する
- 地域活動拠点の運営を支援する

主要な協働の展開

基本施策を協働で実現するため、主要な内容について、町民と行政のそれぞれの取組をわかりやすく記載しています。